

## 四国の山村の村おこし 管外視察研修

「葉っぱがお金に化ける」  
上勝町 (株)いろどり

4月8日、10日にかけて、徳島県上勝町と高知県馬路村を訪れ、視察研修を行いました。

徳島市から車で約2時間の上勝町は「彩りの町」をキャッチフレーズに町づくりに取り組んできた、人口2千人、高齢化率50%、86%が山林という町です。

昭和56年の異常寒波でミカンが全滅して、希望を失いかけていた町を「つまもの」で再生させたのが、(株)いろどりの副社長横石知二氏で、同氏に町再生のノウハウを伺



上勝町視察風景

いました。

「つまもの」を市場で優位販売できるように防災無線やFAX、パソコンによる情報化を進め、86才のおばあさんも自分で出荷計画を立てるなど、194人いる会員の中には月百万円稼ぐお年寄りもいるとの事でした。また、美しい山から採れる葉っぱを出荷したいと、町をあげてエコ活動に取り組み、34種類のゴミ分別で2020年までに「ゴミゼロ」を目指しています。〃宝物とは自分が見つけないとゴミでしかない〃



「ゆずの森」加工場作業風景

高知市から車で約2時間、96%が山林で人口は1070人の山村。

毎年全国からの視察が2百〜3百団体。観光客は6万人程訪れる村で、標高千メートル級の谷間にはりつくように、または川べりにせり出してゆず畑が広がっていました。

昭和38年から10人程でゆずの栽培を始め、昭和63年にポン酢しようゆ「ゆずの村」が「日本の101村展最優秀賞」を受賞。その後、馬路村公認飲料「ごっくん馬路村」が完成し町が全国



「ゆずの森」加工場視察風景

馬路村の村おこしのカリ

に知られ始めました。また「馬路村をまるごと売り込む」情報発信戦略や各種イベントによる交流人口拡大が続いています。

役場の職員数より多い60人を雇用し半数がゆず関係に携わる「ゆずの森構想」により農産物直売所「ゆずの森」、パン工房「ゆずの花」などがつくられ、40品目のゆず製品を全国へ通信販売し、売り上げは年間30億円に上るそうです。

私たちも、飯山を丸ごと売り込む取り組みで元気を出したいものです。

### 「飯山市農業委員会だより」優秀賞を受賞

全国農業会議所主催の平成20年度「第15回農業委員会だより全国コンクール」において「市町村広報活用型」で優秀賞を受賞しました。今後も、飯山市農業や農業委員会の活動状況などをお伝えして、市民の皆様役に役立つ紙面づくりに努力してまいります。



力を合わせてがんばってます！

市村 伸一・早苗 さんご夫妻  
 上境 (岡山)  
 GANBATTEMASU  
**が がんばってます!**  
 — No.28 —  
 農業っておもしろい!

だけ機械を使って人手を

— 農業を選んだ理由は父親が平成元年にキノコ施設を建て替えて、それまでは他の会社に勤めながら手伝いをしていましたが、本格的に施設を手伝うようになって、今は専業農家です。

— アスパラガスとキノコの兼ね合いは

やはりキノコは夏場の需要が減ってしまうため、アスパラガスは夏場のキノコの補填としてやっています。とはいえ、今ではアスパラガス畑もかなりの面積になりました。

— 農作業の工夫はアスパラガスの収穫は人の手でできませんが、畑の維持管理等は、できる

株を普通より離したり、また支柱を立てないで、その代わり土を多めに盛って倒伏防止や除草したりしています。

キノコにしてもアスパラガスにしても、いかに良い作物が作れるかおいしい作物が作れるかを常に考え、情報収集したり仲間の意見を聞いたり、やはり専業農家として日々の勉強は大切です。

子供の頃から機械に乗るのが大好きで、大きな機械で畑を耕起したり、消毒したり、厳しい仕事のなかにも、自分の楽しみに結び付けて日々農業と向き合っ

ています。アスパラガスの収穫期はとにかく体がきついです。日の出とともに作業を開始し、黙々とアスパラガスを収穫していきます。午後3時からいまでは作業終了を目標にしていますが、最盛期にはまる一日掛かってしまう事もあります。

— キノコの種類は

いろいろと試してはみましたが、最終的にブナシメジ1種類に落ち着きました。キノコは品種によって栽培サイクルが違うし、雑菌が混入してはいけないの

に知られ始めました。また「馬路村をまるごと売り込む」情報発信戦略や各種イベントによる交流人口拡大が続いています。役場の職員数より多い60人を雇用し半数がゆず関係に携わる「ゆずの森構想」により農産物直売所「ゆずの森」、パン工房「ゆずの花」などがつくられ、40品目のゆず製品を全国へ通信販売し、売り上げは年間30億円に上るそうです。

— 新規就農を目指す人たちにはアドバイスを

農業を目指す仲間が増えるのは大変嬉しいことですが、しっかりとした気持ち、そして夢を持って向かっていってほしいです。

まず、大規模農家に研修に行ったり、農業体験に参加して「農業」という